



## 全国学力状況調査の結果から考えること

文部科学省が、2025年4月に実施した全国学力状況調査の結果を公表しました。その結果が、8月1日の新聞に掲載されていましたので紹介しましょう。

### 子の学力大幅低下 背景は一 ゲーム・スマホ 長時間化顕著

・・・まず学校外の勉強時間が短くなった。塾なども含む平日の勉強時間は、小6が1時間3分（前回比6分減）、中3が1時間23分（同11分減）。勉強時間が長いほど成績は高い傾向だった。代わって伸びたのがゲームやスマートフォンの時間。平日の平均時間は、小6＝ゲーム1時間43分（前回比18分増）、スマホ1時間5分（同22分増） 中3＝ゲーム1時間48分（同22分増）、スマホ1時間56分（同20分増）。ゲームが長い子ほど、調査のスコアは低い傾向だった。スマホも一定の時間を超えるとスコアは下がった。 ※スコア・・・正答率 （朝日新聞 2025. 8. 1）

### 保護者へ 人と過ごす楽しさ伝えて

保護者はどう向き合えば良いのか。千葉大教育学部長の藤川大祐教授（教育方法学）は「親とコミュニケーションをとれていれば、子どもはスマホやゲーム依存にはなりにくい」と話す。スマホなどの開始時に使用時間などのルールを話し合い、守れなければ「子どもと一緒にルールを見直すといい」と話す。一方、デジタル以外の楽しさを教えることも大切だ。スポーツや音楽などを通して「人と過ごす楽しさや夢中になれることを知ると、メディア接触時間は減り、知的な活動に意欲が出る好環境が生まれる」と話す。・・・ （朝日新聞 2025. 8. 1）

### 読書好き↓

・・・学力テストでは、教科ごとの調査とは別に生活習慣や家庭学習の状況を尋ねる質問調査も実施。25年度調査で「読書は好きですか」との設問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は、小学6年生が69.8%、中学3年生が61.7%だった。同様の回答率は小6では学力テストが開始された07年度以降、直近で同じ設問があった22年度まで常に70%を超えていたが、25年度は初めて6割台になった。中3は07年度から70%前後で推移。22年度の68.3%から3年間で6.6ポイント落ちた。読書好きが「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた児童生徒ほど正答率が低く、読書好きの児童生徒と、そうでない児童生徒との平均正答率の差は教科によって16.7～18.4ポイントあった。

（毎日新聞 2025. 8. 1）

この記事を読まれてどのように思われたでしょうか。

「ゲームやスマホの時間が長いほど学力が低い」ということは、当然考えられることでしょう。こどもたちには小中学生の時に学ばなければならないことがたくさんあります。それをゲームやスマホに時間を奪われてはいけないのではないのでしょうか。家庭で、ゲームやスマホとの付き合い方について、もう一度話し合ってみましょう。

また、読書もこどもにとって大切な活動です。知識が身につく、考える力がつきます。そして、こどもの心を豊かにしてくれるとても有意義な活動なのです。こどもに本に親しませるために、図書館や学校の図書室、公民館等を利用させましょう。こどもと一緒に図書館等に行ってみませんか。本好きなこどもに育つこと請け合いです。

青少年育成センター指導員 藤村